

令和元年度

第3回宇治市小中一貫教育推進協議会 資料

令和2年2月20日（木）18:00～

宇治市役所 6F 602会議室

目 次

1	令和元年度宇治市小中一貫教育中学校ブロック活動状況	…	1
2	令和元年度中学校ブロック年度総括票		
	・ 宇治中学校ブロック	…	3
	・ 北宇治中学校ブロック	…	4
	・ 槇島中学校ブロック	…	5
	・ 西小倉中学校ブロック	…	6
	・ 西宇治中学校ブロック	…	7
	・ 南宇治中学校ブロック	…	8
	・ 宇治ひろの学園（広野中学校ブロック）	…	9
	・ 東宇治中学校ブロック	…	10
	・ 木幡中学校ブロック	…	11
	・ 宇治黄檗学園（黄檗中学校ブロック）	…	13
3	令和元年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動報告	…	14
4	令和元年度宇治市小中一貫教育に係る視察受入状況	…	15

令和元年度 小中一貫教育中学校ブロック活動状況(1)

学校教育課

	ブロック目標 ◎運営組織体制 □ラニングコーディネーター校務分掌 ◎教科連携教員教科等	合同研修会・研究会等	体験活動 □児童生徒交流活動	家庭・地域と連携した取組	学力診断テスト活用 □授業システム ◇家庭学習の取組	その他 □研究指定事業 ◇小小連携
1 宇治中B	◎「ふるさと宇治」を愛し、みらいを展望し、たくましく生きる児童生徒の育成」 ○ブロック校長会、ブロック教頭会、コーディネーター会（授業づくり部、人権教育部、児童生徒連絡部） □小学校教務主任 ◇【市・英語】	○小中合同研修会（5月、8月、11月、1月） ○公開授業研究会（11月）	○新入生体験入学 ○中学生の職場体験 ○ふるさと宇治21（12月）で中学校の部活動体験 □部活動合同練習（駅伝、鼓笛クラブ）	○小中一貫教育だより（FUT）を年3回発行 ○「ふるさと宇治21」をはじめ地域の諸行事に参加 ○6年生保護者を対象に中学校教員が各小学校で「中学校準備講座」を開催	□「やましろ授業スタンダード」を活用 □宇治市の「アクションプラン」において国語力の向上育成	○分散学校に配慮した取組 ○中学校の定期テストについて小6児童対象に不安解消の取組
2 北宇治中B	◎「学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める」 ○3校校長連絡会 企画会議（校長、教頭、コーディネーター） 授業部 学力部（学力分析、授業改善、道徳、外国語（英語）、家庭学習、特別支援・教育相談担当） コーディネーター会議 □中学校教務主任 ◇【市・英語】	○総会2回（6月、2月） ○夏季合同研究会（8月） ○合同授業研究会（10月） ○授業参観の取組 ・小倉小（6月） ・北宇治中（10月） ・北小倉小（2月）	○小学生半日体験入学（11月） □書き損じハガキの取組（2月）	○「小中一貫教育だより」を発行 ○地域連携夜間（ハローロール（夏）） ○小中合同カンパニー（12月）	◇「家庭学習の手引き」を発行し、有効利用	○中学入学前の「春休みの宿題」を改訂し、発行
3 横島中B	◎「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」 ○「夢・未来」会議（校長、教頭、教務主任） ブロックの校長会議、教頭会議、コーディネーター会議 部会（特別活動、生徒指導、特別支援教育、特別の教科道徳、国語、授業作り） □中学校教務主任 ◇【市・英語】	○合同研修会（6月、8月、11月） ○各部会で総括会議 ○小倉小授業参観（5、6月）	○6年生体験入学 ○中学生の職場体験 ○古着回収の取組 □小・中学生の生涯交流会 □児童会・生徒会の挨拶運動 □小中絵画巡回展	○小中一貫教育便り「マキシマム」の発行・HP掲載 OPTA・青年会合同本部役員研修会（10月） ○地域の「夏祭り」や餅つきに参加 ○青少年健全育成協議会「クリーン活動」に参加 ○横島小学校区の「左衛門」に参加	○学力分析に基づき授業改善の研究を進めたい ○ブロックの「授業スタンダード作り」を目指す	○各校の研究成果の交流による小小連携、小中連携の推進
4 西小倉中B	◎「小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の 豊かな心と 確かな学力を育む」 ○西小倉中ブロック小中一貫教育推進委員会（校長部会、教頭部会、コーディネーター部会、養護学業部会） ○学力充実・向上部、生徒指導部、児童・生徒交流部 □小学校教務主任 ◇【附・保体】	○フリー参観、総会（5月） ○合同研修会（8月） ○小中合同授業研究会（11月）	○6年生体験入学 ○中学生職場体験 □あいさつ運動	○「家庭学習の充実につなげる意識アンケート」の実施 ○「学校だより」やHPで発信 ○各校の「一貫教育コーナー」（掲示版）の充実	□「やましろ授業スタンダード」の活用 □中学校の形式に合わせたテストの実施	◇テストに向かう準備を実施
5 西宇治中B	◎「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」 ○小中一貫教育推進会議（ブロック校長会、ブロック教頭会、コーディネーター会議） ○領域3部会（学力充実、児童生徒理解、児童生徒交流） □小学校教務主任 ◇【市・英語】	○合同研修会（6月、8月） ○合同研修公開授業（10月）	○中学生の職場体験（5月） ○6年生中学校体験入学（11月） ○中学生による小学生への部活指導 ○小6対象「中学校の学習」説明会（2月） □「朝のあいさつ運動」	○地域行事への参加（夏祭りや左衛門など） ○「地域ハローロール」「西宇治オーブンフェスタ」への参加 ○中学校オープンスクール ○広報誌の発行 ○HPで小中一貫教育の啓発	○「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づき 国語力の育成 ◇「学習の手引き」改訂	○「春休みの宿題」を作成実施

令和元年度 小中一貫教育中学校ブロック活動状況(2)

学校教育課							
	◎ プロジェクト目標 ○ 運営組織体制 ◇ ラーニング・パートナー・校務分掌 ◇ 教科連携教員教科等	○ 合同研修会・研究会等	○ 体験活動 □ 児童生徒交流活動	○ 家庭・地域と連携した取組	○ 学力診断テスト活用 □ 授業システム ◇ 家庭学習の取組	○ その他 □ 研究指定事業 ◇ 小・小連携	
6	南宇治中B ◎「夢や希望を持ち、未来をたくましく生き抜く児童生徒の育成」 ○学力充実部(授業づくり部、基礎基本の定着部) ○児童生徒理解部(特活部、生指・教相部、特支部、 県国外人理解部) ○連携・支援部(養護・栄養部、事務部) □中学校教務主任 ◇【附:英語】	○授業参観、総会(6月) ○三校合同研修会(8月) ○中学校授業参観(11月)	○小学6年生の授業体験・部活動体験(中学生による小学生の部活動指導支援) □小中合同地域清掃ボランティア活動 □児童生徒会合同会議 □合同あいさつ運動(11月)	○小中一貫教育だより(各学期1回)、学校だより(毎月)を発行 ○小中合同ほけんだよりの発行 ○学校HPに取組の様子掲載	○授業規律の共有 ◇「家庭学習の手引き」の配布 ◇新入生対象の「書体みの課題」の精選	○学校生活のまきりやよりよい児童生徒の姿を小中で共有 ○「県国外人児童生徒理解学習」を実施 ○「学びの深化プロジェクト」事業(南宇治中)	
7	広野中B ◎「夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成」 ○学校運営部(ブロック校長会、教頭部会、務局部会、 コーディネーター部会)、学力部会、児童生徒理解部会、 児童生徒交流部会、その他の部会(小・小学年部会) □小学校教務主任 ◇【附:数学】	○宇治ひろの学園研究会 (総会5月、合同研修会8月)	○HOT-STUDY(小6の中学校半日入学) □HOT-MEETING(3校合同児童生徒会) □福島ひまわり里親プロジェクト □中学生による小学生への紙芝居の読み聞かせ	○子どもの主張大会参加(大久保青少協) ○3校合同地域懇談会の開催 ○挨拶運動の実施 ○「大開つくらぶ(土曜活用)」に広野中が参加	○全国学力・学習状況調査、府学力診断テスト、GRTテスト等の結果分析と課題の共通理解 ○「学びの意欲を高めるために3校協働研究でアンケート実施」 ◇「家庭学習の手引き」等改訂予定	○中学校教員の小学校体験研修 ○小学校教員の中学校体験研修 ○小学校教員の中学校部活動見学会 ○中学校定期テストへの不安軽減の取組 ◇小・小交流や連携の充実	
8	東宇治中B ◎「命を贈る人間」 ○ブロック運営委員会(ブロック校長会議、コーディネーター会議) 学力充実推進部会 研究授業部会 □小学校教務主任 ◇【附:英語】	○小中合同研修会3回(5月、8月、11月) ○小中合同研究授業・参観(5月、6月、11月)	○小学6年生の中学校体験入学(11月) ○中学2年生の小学校での職場体験(6月) □中学生の美術作品巡回展示 □花壇ボランティアによるプラントーランド □地域行事への参加交流	○小中一貫教育便りの発行 OPTA、育友会の保護者合同研修会(11月) ○おおくま(東宇治ふれあいネット)	○ブロック児童生徒の学力分析 □授業システム導入の活用 ◇「家庭学習の手引き(保存版)」の配付	○中学校からスクールライフサポートブックを小学6年に配付 ○先スタ(中学入学前の学習)を小学6年に配付 ○中学校便りを小学6年に配布 ○定期テスト対策(小学6年) ◇3小合同研修会(8月)	
9	木幡中B ◎「故郷(ふるさと)で夢や希望をばぐくみ、未来を切り拓く児童生徒」 ○ブロック校長会、ブロック教頭会、一貫教育推進委員会 (教科部会8教科、連絡会3領域) □中学校教務主任 ◇【附:英語】	○小中合同研修会(6月、8月、11月) ○小中合同授業研究会(11月)	○6年生半日体験入学 □中学生部活動交流	○「おもろいやんか木幡」(青少協事業)に参加 ○中学校の「学校だより」「生活だより」を6年生に配布 ○小中一貫教育だよりを発行、取組をHPに掲載 ○新入生保護者説明会(11月) ○6年生保護者対象の「中学生の進路」についての説明会を実施(11月)	○「やましろ授業スタンダード」を活用 □「4人組」を取り入れた授業づくり □学びのある授業のモデル化	○6年生卒業後の書体み宿題(国語・算数・英語) ◇三校交流による小・小連携 木幡小・笠取小・笠取第二小 御蔵山小・7笠取小・笠取第二小	
10	黄瀬中B ◎「高い志を持ち、他者と協調しながら、たくましく生き抜く人間を育成する」 ○小中一貫の組織を構成 □小学校教務主任 ◇【市:英語】	○年間を通じた合同研修	○黄瀬ウォーカー(1,9年生)、OB&AKUミツキング(6,7年生)、縦割班活動(1～6年生)など異学年集団活動 □学園会を組織	○青友会行事に積極的参加 ○地域懇談会に教職員参加 ○左藤屋や子どもフェスティバルなど地域行事に参加 ○親のための進路セミナー開催	○学力テストの結果を受け、小学校段階での改善策を検討 ○中学校でのテスト実施状況や課題点を調査分析	○「未来の担い手」育成プログラム	

ブロック小中一貫教育目標

ふるさと宇治を愛し、みらいを展望し、たくましく生きる児童生徒の育成

めざすこども像

- ア とともに学び、考える児童生徒
- イ たくましく生きる児童生徒
- ウ 笑顔を大切にする児童生徒

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
組織の再編により、児童生徒の質の高い学力（国語力）の向上に向け、各教科部会において、授業研究会を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を進めた。
菟道小学校での同和問題に係る直接学習（社会科）を多くの教員が参観できる機会を設定した。
養護教員部会では、中学校に進学する児童や中学校に進学した生徒についての交流を行った。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
これまで行っている交流の取組（クラブフェスティバル、駅伝合同練習、鼓隊クラブ・吹奏楽部合同練習）の内容を精査し、より効果的な方法を検討し、実施した。
- (3) 家庭や地域との連携
小中一貫教育校だより（F U T T）や学校だより等を積極的に活用しながら小中一貫の取組を紹介した。また、中学校教員が小学校に出向き、6年生保護者に対して「中学校準備講座」を開催したり、6年生児童に対して、中学校の「定期テスト」に対してどのように学習すればよいか話を聞いたりする機会を設けた。
中学校の学校だよりを6年生全員に配付し、中学校の様子をよく知ってもらうとともに、各小学校の学校だよりを中学校の掲示板に掲示した。
- (4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善
ブロック校長会の指導のもと、ブロック教頭会とコーディネーター会を要とした推進体制の充実を図った。ブロック教頭会、コーディネーター会で取組の方向性について検討し、ブロック校長会の指示のもと、具体的な取組を各教科部で推進した。

今年度の成果と課題(成果)

- ・組織の再編により、児童生徒の質の高い学力の向上（国語力）に向け、各教科部会において、授業研究会を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を進めることができた。
- ・菟道小学校での同和問題に係る直接学習（社会科）では、多くの教員が参観することができ、同和問題への理解を深めることができた。
- ・養護教員部会では、より深い交流をすることで、児童生徒への効果的な支援を行うことができた。
- ・小学6年生に対して中学校教員より「中学校での定期テスト」に対しての話を聞く機会を設けることができ、中学進学に向けての不安解消につながった。

(課題)

- ・児童生徒の国語力の向上について、国語科だけでなく、他の教科においてどのように国語力を付けていけばよいかについてより共通理解を図る必要がある。

来年度に向けて

- ・児童生徒の国語力の向上に向けて、国語科だけでなく、他の教科においてどのように国語力を付けていけばよいかについて共通理解を図る。そのために外部講師等を招聘し、研修会を実施する。

ブロック小中一貫教育目標

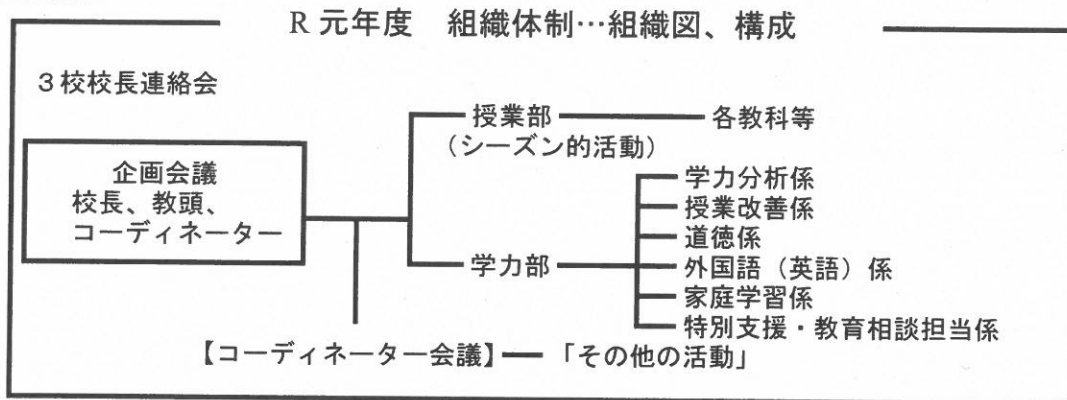
「学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める」

めざす子ども像

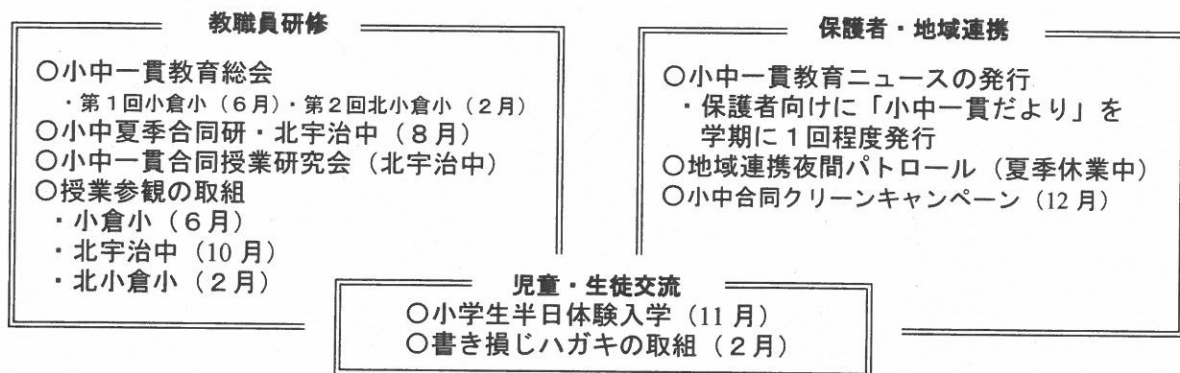
・自ら考え、自発的に表現できる子（知）・人と地域のつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にする子（徳）・運動に親しむことにより、楽しく生活できる子（体）

今年度の取組

【推進組織】



【取組の概要】



今年度の成果と課題

- ・本年度も合同授業研を開催し、効果的な指導方法の交流を図ることができた。
- ・学力面を中心に継続的に小中一貫教育の推進が図れた。
- ・ラーニングコーディネーターが中心になり企画会議を設定するとともに、年度当初の各校顧問と各係会代表との打ち合わせ会が設定できた。
- ・ラーニングコーディネーターが中心になり、年3回の研修会の機能的な運営が行えた。
- ・ラーニングコーディネーターが中心になり保護者向けにニュースを発行し、小中一貫教育の周知・徹底を図ることができた。
- ・学力面を中心に小学校と中学校の連携を一層深め、具体的な学力向上の成果を出していく必要がある。
- ・保護者や地域に小中一貫教育の取組を周知し、さらに理解を図っていく必要がある。

来年度に向けて

- ・系統的、継続的取組を通して、学力面を中心に小中一貫教育をさらに推進する。
- ・多様な観点から学力の伸長を、目に見える形での数値化を図っていく。
- ・中一ギャップの解消を図れる取組をさらに進めていく。
- ・ブロック内での連携を深め、「道徳」「外国語（英語）教育」の円滑な実施に向け研究を進める。
- ・学力部係会の新たな編成を検討していく必要がある。

ブロック小中一貫教育目標

「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」

めざす子ども像

- 心身共に健康で、明るく活動する子
- 意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子
- 地域でつながり、共に支え合い、高め合う子

今年度の取組

【「学力の充実・向上」に関わる取組について】

◎合同研修会の運営

- ・ 6／10（月）…中学校授業参観、全体会（今年度の方針の確認）
- ・ 8／20（火）…特別の教科 道徳についての講演、各部会での交流
- ・ 11／12（火）…府小研特別の教科 道徳研究協議会（北榎島小）への参加
- ・ 11／25（月）…各部会で年度の総括

⇒今年度は当初に榎島中学校ブロックの学力向上のイメージを図式化し、小中合同研修会で示した。

⇒そのイメージをもとにした部会を編成し、それぞれの部会で学力向上に向けての議論を行った。

⇒次年度から、小中の先生が一緒になって授業作りを行い、榎島中学校ブロックの授業スタンダード作りに向けて研修を進めることになった。

◎授業参観

- ・ 5／20（月）…榎島小授業参観
- ・ 6／20（木）…北榎島小授業参観

◎中学1年ふりスタへの小学校教員による支援

◎ラーニングコーディネーターによる小学校外国語授業の参観

【その他の取組について】

- ◎小中絵画巡回展（小学校11／2、中学校11／9、榎島コミセン11／29～12／4）
- ◎児童会・生徒会合同あいさつ運動（12／10・11）
- ◎小中主張交流会（2／28）
- ◎榎島中ブロックPTA・育友会合同研修会（10／25）
「法教育の観点からのケータイ・スマホのトラブルとその対応」

今年度の成果と課題

- 学力向上のイメージを共有し、榎島中学校ブロックとして学力向上を目指した授業改善を行っていく方向性を確認することができた。
- 北榎島小学校で行っている道徳の研究を、夏季研修や研究協議会への参加を通して、ブロックで共有することができた。
- ▲各部会を通して、情報共有はできたものの、学力向上につながる学級づくり・授業作りまで内容を深めることができなかった。
- ▲小中一貫だより「マキシマム」を定期的に発行し、教職員や保護者への共有を図ることができなかった。

来年度に向けて

- ・小中合同研修会で授業作りを行い、「事前研修⇒授業研究⇒事後研修」の流れを汲んだ研修会を行う。
- ・基礎学力の充実に向けて、各小中学校で取組を進め、その成果を交流する。
- ・各校の学力分析をブロックとして共有する。
- ・小中一貫だより「マキシマム」の年間発行数を増やし、研修会での内容のふり返しや保護者への情報の共有を図っていく。

ブロック小中一貫教育目標

小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の 豊かな心と 確かな学力を育む

めざす子ども像

- ・自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・健康に気を付け 自らの目標に向かってがんばる子

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・「やましろ授業スタンダード」の活用。
 - ・教科連携加配(体育)による小学校6年生(南小倉小学校は5年も実施)の指導。
 - ・小学校高学年における教科担任制授業(音楽)を推進する。
 - ・「いしずえ学習」を活用し、基礎基本の徹底や「自主学習」「振り返り学習」を行う。
 - ・中学校のテストへの不安軽減を図るため、両小学校6年生が、中学校の形式に合わせたテストを実施する。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・合同授業研究会(1回)、フリー参観(1回)を行う。
 - ・小小連携加配による、両小学校での音楽の授業を通して課題を発見し、改善する。
 - ・国語への意欲向上のために、4月に両小学校6年生に「全国学力調査準備講座」を実施する。
 - ・外国語を両小学校で先行実施し、小小や小中の接続を意識した授業を展開する。
 - ・重点目標「C層D層の児童生徒の学習意欲を高めるために教員の指導力を向上させる。」に沿って、各校で行う研修にお互いが参加できる体制を作る。
 - ・自主学習ができる児童生徒を育てるために、各校の宿題や放課後学習、補習の取組をコーディネーターが共有し、各校で改善していく。
- (3) 家庭や地域との連携
 - ・家庭学習の充実に関わる意識アンケートを実施する。
 - ・様々な取組を「学校だより」、HP等で発信する。
 - ・各校の「一貫教育コーナー」(掲示板)を充実させる。
- (4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善
 - ・月1回程度のコーディネーター会議で合同研究会の計画や各部の活動状況を把握する。
 - ・月1回の推進会議を持ち、連携加配も参加し全員で実態を把握し各校の取り組みへつなげる。

今年度の成果と課題

(成果)

- ・夏季合同研修会では、C層D層の学習意欲向上という3校共通の課題に迫るために、京都教育大学の村上教授を招いて、「コーチング」について研修を行い、子どもの見方や接し方という教員の基礎基本といえる部分を学び合えた。
- ・同じ研修を3校の教員が受けることで共通の教育理論を持って話ができ、教員自身の自己分析、児童生徒分析、小集団の作り方など新しい視点で考えることができた。
- ・ラーニングコーディネーターが南小倉小・西小倉小の6年生に「全国学力調査国語準備講座」を実施したり、西小倉中学校の職員会議で、小学校の全国学力調査の結果とC層D層へどんな学習指導をしているかという報告を行うなど、3校の児童生徒・教員に働きかけ情報を共有することができた。

(課題)

- ・目指す生徒像をもっと具体化・焦点化し、学力とともに道徳の重点項目、生徒指導面でも交流していく必要がある。

来年度に向けて

- ・不登校という3校共通の課題を一緒に考えていくことができるシステムを作る。
- ・ブロック校長会からの提案をコーディネーターが具体化し、連携加配を中心に育てたい力を意識した授業実践ができる組織にしていける。
- ・学力に関わって、評価の観点が変わることをきっかけとして子どものどんな姿を評価していくかを学び合う研修を行う。
- ・C層D層に焦点を当てるとは、全体のレベルを下げるのではなく、C層D層の児童生徒の個々の課題を見つけ、ねばり強く学習に取り組めるようにすることである。

ブロック小中一貫教育目標

N・I・S目標

「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」

めざす子ども像

- 知「展開する力」：・深く考え、よく聴き、意欲的に表明する子
- 徳「つながる力」：・温かい心で助け合う子 ・節度をもった礼儀ある子
・違いを認め合える子
- 体「挑戦する力」：・ねばり強く諦めない子 ・基本的生活習慣や健康を配慮できる子

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・10月に公開授業（会場：神明小学校）を開催し、3校協働で指導案作成及び指導方法等の研究・研修を実践した。また、その準備として、6・8月の2回にわたって3校合同の研修会を行った。
 - ・夏季研修会では、総合教育センターの松村指導主事に「学習の基盤となる言語能力の育成を目指して」をテーマとした研修を行った。
 - ・学力充実部では、各校の国語の授業における指導方法について実践を交えた交流を行った。
 - ・夏季研修会において、各校の学力分析の報告を行い、中学校ブロックの課題に共通認識を持った。
 - ・新学習指導要領の実施に伴い、「学習の手引き」の見直しを各校コーディネーター・学力担当で行った。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・中2「職場体験学習」の場を小学校に設定する取組（5月）や、小学校側が中学校に出向き、駅伝合同練習を行う等、小中連携だけでなく小小連携を深める取組を積極的に実践した。
 - ・小6「中学校体験入学」（11月）、「『中学校の学習』説明会」（2月）を実施するなど、児童の小中格差に関わる不安を取り払い、スムーズに中学校生活へ移行できるよう支援した。また、中学校体験入学においては、今年度より授業体験を実施した。「春休みの宿題」は今年度も統一したものを作成した。
 - ・毎学期、小中学校共同で「朝のあいさつ運動」に取り組み、児童会・生徒会相互の交流を深めた。
- (3) 家庭や地域との連携
 - ・広報紙発行（小中学校保護者及び地域配布用）の取組を継続するとともに、小中一貫教育啓発掲示板の有効活用、各校学校だよりのブロック内交流、各校HP上の工夫等々を実現し、地域に発信し理解と支援を求めた。
 - ・各地域行事（夏祭りや左義長など）、夏休みの「地域パトロール」、西宇治オープンフェスタ、中学校オープンスクール等々への積極的な参加を通して、地域との連携を図り支援や協働を得た。
- (4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善
 - ・ブロック校長会をはじめ各会議を適宜開催し内容の充実を図るとともに、推進計画が円滑に遂行されるよう、各会及び各部との交流、連携に努めた。
 - ・小中連携の諸行事における準備の手順や役割担当等を明確にし、協働体制を構築した。

今年度の成果と課題

成果

- ・新学習指導要領を見据え、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業作りを小中学校の教員で行うことで、効果的な手立てを各教科ごとで学ぶことができた。
- ・「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づき、出前講座や授業作りの交流、学力分析等を行い、国語力の育成に努めることができた。

課題

- ・今年度も「学力充実部」「児童生徒理解部」「児童生徒交流部」の3部会の組織で研修を進めたが、時間等の都合で各校の取組等の交流に留まってしまうことが多かった。

来年度に向けて

- ・中学校ブロックとして「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づき、さらなる学力向上を見据え、学力に特化した組織作りの必要性がある。
- ・中学校ブロックとして9年間を見据えた学習に対する取組や授業でのルール等において共通したものを作成する必要がある。
- ・学校教育を取り巻くあらゆる変化や多様性に対し、地域全体で柔軟且つ適切に対応できるよう、小中間で積極的に交流し合い情報の共有や協働を推進する。

ブロック小中一貫教育目標

「夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成」

めざす子ども像

『夢や希望を持った、未来をたくましく生きぬく子ども』

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・学力分析の結果から、具体的な改善目標を精選し、設定した目標に向けての取組を検討する。
 - ・授業を公開し、事前研・事後研を含む授業研究を行い、小中で取り組める授業改善の方向性を探る。
 - ・授業規律の共有と家庭学習の取組（家庭学習の手引きの活用など）を進める。
 - ・各校の状況を踏まえ、学校生活のきまりや、よりよい児童生徒の姿を小中で共有する。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・両小学校で帰国外国人児童生徒理解学習を実施し、中国武術体験などを通して三校共通のグローバルな感覚を養う。
 - ・児童会生徒会合同会議を実施し、小中合同地域清掃ボランティア活動や、児童会生徒会合同あいさつ運動を児童生徒の主体的な取組にする。
 - ・小学6年生の授業体験・部活動体験や、中学生による小学生の部活指導支援を通して児童生徒の交流を図る。
- (3) 家庭や地域との連携
 - ・「小中一貫教育だより」を校区の保護者対象に発行する。
 - ・「家庭学習の手引き」の配布を通して、家庭学習の大切さを知らせ保護者と一体になって家庭学習推進の取組を進める。
 - ・地域に学校だよりを配布し、学校の実践を紹介すると共に、地域の課題を共有する。
- (4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善
 - ・ブロック校長会をふまえ、コーディネーター会議及び推進委員会を計画的に実施する。
 - ・ブロック校長会の指導に基づき推進計画を立案し、改善充実させる。
 - ・コーディネーター会議及び推進委員会等について、教科連携教員を効果的な活用を検討する。
 - ・ラーニングコーディネーターが定期的に学校訪問を行う。

今年度の成果と課題

- ・児童生徒に身に付けさせたい力を明確にし、授業で話し合い活動を取り入れる機会を増やした。
- ・新入生対象の「春休みの課題」を中学校までに身に付けてほしいものへと精選した。
- ・小中を通して身に付けたい習慣「あいさつ・靴を並べる・傘のバンドを締める」が行えるようになっている。
- ・小学6年生の入学説明会・授業体験・部活動体験を同日に行った。半日体験をすることで、児童が中学校生活に対するイメージを持てた。
- ・夏の小中合同研修会では「知ることにつながる人と人」について講師を迎えて研修を行った。校区の特徴や人権に関して全体で学習し、意識付けするよい機会となった。
- ・部会の編成を工夫し「学力向上」に対する取組・交流が進んだ。
- ・部を構成する人数を精選し、より綿密に会議を進行することができた。
- ・小中一貫教育の取組を教職員全員で行っていくという意識の向上につながった。
- ・教科連携加配教員は、小中一貫教育推進の要として位置づけた。中学校の授業体験でも英語の授業を実施した。
- ・授業の中での導入・展開・まとめ・振り返りの徹底を行っていききたい。
- ・中学校につながるような小学校の授業を展開していく。また、中学校は、小学校の授業で大切にされてきたことを継承・発展させる。
- ・授業者は、授業規律としてメリハリ（書くときは書く、聞くときは聞くなど）を意識化していききたい。
- ・各校の取組交流はできたが、日常的な児童・生徒の交流を引き続き考えていく。
- ・各部長を中心に、各部会の質の向上を図れるよう計画する。

来年度に向けて

- ・学力向上に向けて、小学校、中学校の授業の交流を行う。その中で、導入・展開・まとめ・振り返りの話を共有していく。
- ・「家庭学習の手引き」の活用を保護者に啓発し、家庭学習の定着を促す。
- ・朝の会や終わりの会で、人前で話す力を育てる取組を3校でできればと考えている。
- ・児童生徒交流の機会を、日程も含めて実現可能なものにしていく。



宇治ひろの学園 (広野中学校ブロック)

広野中学校
大久保小学校
大開小学校

宇治ひろの学園 教育目標 : 夢や希望をもって未来を切り拓ける児童生徒の育成

推進組織

学校運営部会
(3 校長)

教頭部会
(3 教頭)

事務局部会
(コーディネーター部会)

学力部会

児童生徒理解部会

児童生徒交流部会

その他の部会

小小学年部会

令和元年度の取組

★児童生徒が交流する取組

- ・HOT-MEETING (3 校合同児童生徒会) の実施
- ・福島ひまわり里親プロジェクト参加活動の充実
- ・HOT-STUDY (中学校 新入生半日入学)
- ・中学生による小学生への紙芝居の読み聞かせ 他

★学力充実の取組

- ・アンケートの調査分析と実態把握から「児童生徒の学力向上」への具体的アプローチを考え、実施
- ・全国学力・学習状況調査、府学力診断テスト、CRT テストの結果分析と課題の共通理解
- ・小学校高学年での「教科担当制」
- ・中学校定期テストへの不安軽減の取組
- ・宇治ひろの学園共通問題 (算数) の実施 他

★教職員が交流・共同研究する取組

- ・「学びの意欲を高める」ための 3 校協働研修の実施
- ・京都文教大学との連携
- ・宇治ひろの学園研究会の開催
(5 月総会、8 月夏季合同研究会)
- ・2 小学校教員による小小交流の充実
- ・小学校教員による中学校の部活動見学
- ・中学校教員による小学校体験研修の実施 他

★保護者・地域と交流する取組

- ・宇治ひろの学園挨拶運動の実施
- ・3 校合同地域懇談会の開催
- ・子どもの主張大会 (大久保学区青少協主催) 他

令和元年度の成果

- ・「学びの意欲を高める」ための 3 校協働研究を進めた。宇治ひろの学園の子どもたちのアンケート結果から、授業での困り感、学習意欲について実態を把握した。小中の教員が一緒になり「学習意欲」を切り口に「児童生徒の学力向上」への具体的なアプローチの方法を考え、実施することができた。
- ・児童会、生徒会を中心に、これまでの取組の目的や意義を再確認し、新規事業を立案・実施するなど児童生徒が主体的に活動を実施することができた。
- ・広野中学校生徒や教員と小学生が具体的な中学校の生活や学習の仕方について話し、感じたことを小学校生活に生かす活動を通して、中学校に向けての不安を軽減することができた。
- ・3 校合同での地域懇談会を開催するなど、学校、家庭、地域で連携・協力しながら小中一貫教育を進めることができた。
- ・HOOP (宇治ひろの学園小中一貫教育だより) を作成して家庭や地域に配付し、小中一貫教育について積極的に情報発信することができた。

令和2年度に向けて (課題)

- ・宇治ひろの学園全体の学力向上を目指し、児童生徒の学びの実態について、さらに正確な調査分析と実態把握を行い、効果の出る具体的なアプローチを実践していく必要がある。
- ・小小連携を更に充実させて有効活用し、無理なく効果的な小中一貫教育の取組を進めていく。
- ・家庭、地域に対して「目に見える取組」をさらに展開していく。

小中一貫教育の活動総括図

教育目標

「命をかがやかす人間」

めざす児童・生徒像

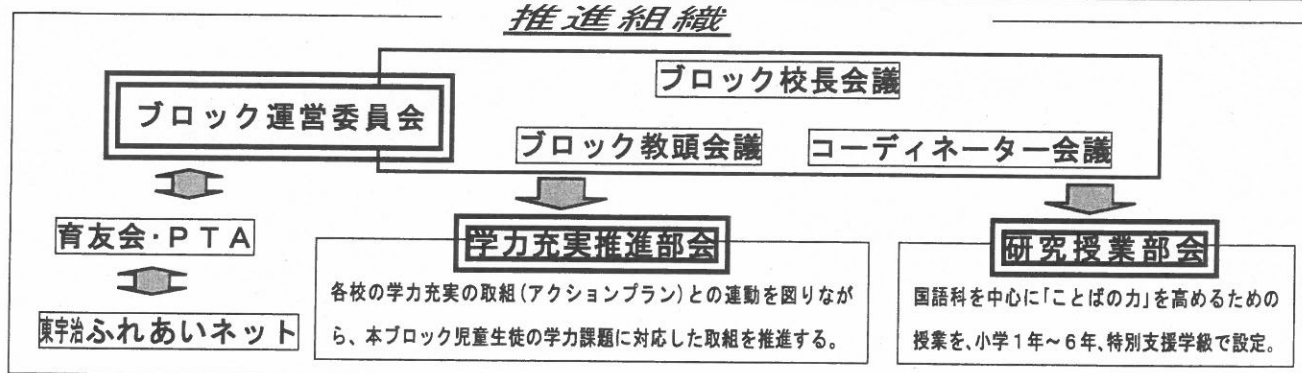
「自ら学び学習する児童・生徒」

「思いやりのある児童・生徒」

「たくましく生きる児童・生徒」

「健康や安全を考える児童・生徒」

推進組織



取組の実際

教職員研修

- 小中合同研修会(5/29・8/22・11/13)
- 小中合同研究授業(11/13 会場:三室戸小)
- 相互授業参観
 - ・小学校から中学校授業参観(5/29)
 - ・中学校から小学校授業参観(6/28)
- 教職員広報の発行
- 4校学校便りを教職員へ配布
- 3小合同研修会+合同学年会(8/22)
- 中学1年ふりスタへの小学校教員支援
- 東宇治中ブロック児童生徒の学力分析

児童・生徒交流

- 小学6年生の中学校体験入学(11/6)
- 中学2年生の小学校での職場体験(6/6-7)
- 中学生の美術作品巡回展示(3学期)
- 花植ボランティアによるプランター贈呈
- 地域行事での交流

家庭・地域との連携

- 小中一貫教育便りの発行
- 「家庭学習の手引き」(保存版)の配布
- PTA・育友会 保護者合同研修会(11/13)
- 小中一貫教育コーナー(掲示板)の設置
- 小中一貫教育リーフレットの配布(小学1年・転入生)
- 「おおばくまつり」(東宇治ふれあいネット)(12/8)

小中スムーズな接続のために

- スクールライフサポートブック配布(小学6年)
- 先スタ(中学入学前の学習)の配布(小学6年)
- 小学6年生の中学校体験入学(11/6)
- 小中連携教員による外国語活動指導(小学6年)
- 東宇治中入学保護者説明会(12/3)
- 小中連絡会(5/13・12月・2月)
- 中学校学校便りを小学6年生に配布
- 授業スタンダードの積極的活用
- 定期テスト対策(小学6年)※ラーニングコーディネータによる指導
- 「宇治学」カリキュラムの検討

学力の充実・向上

ラーニングコーディネーターが中心となり、児童生徒に「ことばの力」や生きて働く学力を身に付けるために

- 「学力充実推進部会」による、ブロック全体の学力の充実・向上に向けた情報収集・情報発信
- 授業充実のための相互授業参観・合同研究授業・授業スタンダードの活用
- 中1京都府学力診断テストを中心とした学力分析を小・中学校の授業改善に活用
- ふりスタ・先スタ・定期テスト対策(小6)による小中の接続強化

成果と課題

- 本ブロック児童・生徒の共通課題である「ことばの力」を高める視点で、授業や指導の充実を図るための小中合同の研究を進めることができた。(合同研究授業・教科ごとの学力充実に関わる研究協議・学力充実推進部会)
- 各校のアクションプランを中心とした学力充実・向上の取組を交流し、各校の取組に反映させたり、指導のポイントを「東宇治中ブロック授業スタンダード」にまとめて日常の指導に活用したりできた。
- 学力の基盤となる主体的態度を高める視点で、児童・生徒交流や地域・家庭連携の取組を展開し、その取組を広めるための情報発信を積極的に進めた。(小中一貫教育だより年間3号※HP掲載・教職員広報年間3号)

令和2年度に向けて

- アクションプランの指標についてブロックとしての分析を行い、本ブロック児童生徒の課題である「ことばの力」「主体的な学習態度」「対話的な深い学び」と関連させた研究や取組を展開する。その中で「義務教育9年間の系統的・統一的な指導で確かな学力と生きる力を身に付ける」という小中一貫教育の基本を大切にし、これまでの成果と課題を踏まえた改善・工夫を図る。

ブロック小中一貫教育目標

めざす子ども像 故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童・生徒

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・合同研修会を通して小中教員が連携し、木幡中ブロックの学力向上につながる主体的対話で深い学びのある研究授業を行う。
 - ・第1回合同研修会で、小学校の教師が中学校の授業参観を行い、小学校卒業後のことを考えた指導に生かす。
 - ・第3回合同研修会で、研究授業を行い、対話的な学習指導の交流をする。
 - ・ラーニングコーディネーターが小学校の理科の授業に参加し、中学校での授業につながる話をした。児童と一緒に給食を取り交流を深めた。
（11月小中合同研修会の御蔵山小2年生での研究授業にラーニングコーディネーターが入った関係から、その後、御蔵山小2年生4クラスとの交流が始まり、順番に「生活」の授業に入ったり、給食交流を行った）
 - ・中学校英語教員による全小学校での授業（通年、毎週）を実施する。
 - ・へき地校を含んだ小小連携授業・交流学习を実施する。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ①「学力充実・向上」に向けての具体的な取組について小中学校の先生にアンケートを取り、ラーニングコーディネーターと各コーディネーターでまとめる作業を現在行っている。
 - ②中学校ブロックにおける教職員の研究・研修の充実
 - ・ラーニングコーディネーターがその特性を生かし、ジョイントプランに沿った形で教職員の研修を進める。
 - ・全教職員が、教科部会または連絡会に所属する。
 - ・各校の学校行事の計画段階で小中一貫教育を意識した取組を計画的、有効的に組み込む。
 - ・研究の具体的な方向性を掲げる。
どの教科にも通じる「学び合い」「ことばの力」を大切にしたい授業にしていこう。
 - ・研究授業に向けて取り組む中で、小中の学習指導の流れをお互いが認識し、系統的・継続的な指導を行う。
 - ・年間3回の小中教員の合同研修会（6／12、8／19、11／13）を行う。
その中で各部長を中心とした教科部会を持ち、授業改善に努める。
 - ・8月19日の研修会では、全体会で小中で共通する課題（特別支援教育）について講師を招き小中での教育活動の連携を図る。分散会で11月の研究授業に向けての準備を進める。
 - ③中学校ブロックにおける児童生徒の交流事業、体験活動の充実
 - ア 小学6年生の中学校への半日体験入学（11／6）
 - ・歓迎行事の取組、部活動の見学
 - イ 中学生の部活動単位での交流
 - ・吹奏楽部による小学校での発表会（9月）
 - ・美術部による小学校作品展への展示発表（2月）
 - ウ 三校交流による小小連携の取組
 - ・6月、御蔵山小、笠取小、笠取第二小
 - ・11月 木幡小、笠取小、笠取第二小
- (3) 家庭・地域社会との連携
 - ・ふれあいフェスタ、おもろいやんか木幡への参加。
 - ・中学校の「学校だより・生活だより」を全6年生に配布する。
 - ・ホームページ（小中一貫教育）への取組の掲載
 - ・新入生保護者説明会（11／8）
 - ・小学6年生保護者対象にした「中学校と進路」について保護者説明会を、ラーニングコーディネーターが行った。（1／31）
- (4) 中学校ブロック推進体制と取組の充実・改善
 - ・ブロック校長会、小中一貫教育推進委員会を常にリンクさせ、計画的に取組を推進する。
 - ・8教科部会および3連絡会で連携を図り、特色のある取組を推進する。
 - ・各学校のコーディネーターと連携をとり、各校の状況を共有する。

今年度の成果と課題

成果：

- ・ラーニングコーディネーターの授業参加により、中学校へつなげる話をしたり、小学校での授業のようすを中学校へ広めることができた。
- ・小中合同研修会で小中の先生が共に研修をする中で、学力向上に向けての意見交流が深められた。
- ・「学び合い」を大切にした授業づくりを目指し、研究授業に向けて各教科部会で準備をすることができた。
- ・「やましろ授業スタンダード」を活用して研究授業を行うことができ、事後研でも深い学びに向けて議論することができた。
- ・「生徒指導」・「教育相談」・「特別支援」の3つの連絡会を一つの「児童生徒理解連絡会」にすることで、3つの方向から児童生徒の交流をすることができた。
- ・第2回小中合同研修会では、後野先生の「特別支援教育の視点を大切にした生徒指導」についての講演が大変わかりやすく好評であった。
- ・半日体験入学で2ルート方式のクラブ見学を行い、昨年度に比べて少し余裕をもって見学できた。

課題：

- ・深い「学び」に結びつく授業の在り方について、まだまだこれから研修を重ねていかなければならない所がある。学力向上のために各教科部会・連絡会で何ができるのかということをも更に追及していく必要がある。
- ・「家庭学習の手びき」を小中でそろえて配布することができなかった。
- ・夏の小中合同研修会を、「府学テの結果について」「11月研究授業の授業案作り」「特別支援教育をふまえた講演」の3本柱で行ったが、内容が多く時間が足りなかった。

来年度に向けて

- ・「やましろ授業スタンダード」を活用し、研修を通してブロック全体の授業力向上をめざす。
- ・深い「学び」の充実に向けて具体的な取組を小中で考え推進していく。
- ・研究授業の持ち方については、各教科部会の意向をふまえて検討していく。
- ・夏の小中合同研修会での「特別支援教育についての講演」は継続して行う。
- ・「家庭学習の手引き」を小中でそろえて配布する。
- ・府学力テストの分析については、「学力・いしずえ」連絡会で確認し、各校で活用する形をとる。（夏の小中合同研修会で、研修会の時間を確保するため）

ブロック小中一貫教育目標めざす子ども像

- ・ 高い志を持って、学びの道を究める人（質の高い学力）
- ・ さわやかな心、優しい心を持った人（豊かな人間性・社会性）
- ・ 強い意志を持って、人生を切り拓く人（意欲や情熱、健康な体）

今年度の取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

① 学習指導

ア 発達段階に応じた指導法の開発を行う。

イ 全ての教科を通じて「主体的・対話的で深い学び」を大切にする授業を目指し授業づくりを行っていく。

ウ 学力テストの結果を受け、小中共通の課題を見出したり、中学校の課題解決に向けて小学校段階でどのような対策が可能かを探ったりするなど、小中相互の学力を分析比較し改善策を検討する。

エ 中学校でのテスト実施状況、課題点などを調査分析し、小学校段階での対策を練る。

② 生徒指導

ア 9年間の継続的な生徒指導を進めるために、生徒指導部長、学年主任を中心にした生徒指導を進める。

イ 課題を小中で共有化し、規範意識の確立と自尊感情を醸成する。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

① 新学習指導要領の趣旨を踏まえて、小学校では1・2年生（年間18時間）3・4年生（年間35時間）で外国語活動、5・6年生（年間70時間）の外国語科を実施する。中学校では、授業を英語で行う、英語による言語活動を充実させるなど、引き続き授業改善を行う。

② 共に学び、共に活動できる児童生徒の育成を目指して、異年齢集団活動を実施する。児童会、生徒会それぞれに独立した組織づくりではなく、学園会を組織して、小学生、中学生という枠組を超えた学園の一員であるという意識を育む。

(3) 家庭や地域との連携

① 育友会行事への教職員・部活動生徒の積極的な参加

② 地域懇談会への教職員の参加

③ 親のための進路セミナーの開催

(4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善

① 小中で一つの組織と考え、打ち合わせ・職員会議・研修会を小中合同で行う。その中で、適切な小中一貫教育推進のために、教職員の情報交換と意思統一を確実に行之、随時、計画や取組についての点検を行う。

② 企画委員会、職員会議等を通して、ステージ毎の学習内容・生徒指導についての意見交換、指導方針の確認などを行う。

今年度の成果と課題

- ・ 全ての教科を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を大切にする授業を目指した授業づくりに向けて、児童生徒の発達段階に応じた研究を進めることができた。
- ・ 1～9年生が共に過ごす中で、自然と下級生は上級生を見て学び、上級生はその自覚を持つことで、自立的な態度を身に付けている。
- ・ 学力向上にむけてさらに取組内容を具体化、系統化し、学校全体で進める必要がある。

来年度に向けて

- ・ 教育活動の基礎となる「国語力」とりわけ「読解力」の育成に向けた取組の充実を図る。
- ・ 「子ども達が自ら学ぶ姿勢を育てる」ことを目指した授業改善や取組をさらに強化する。

令和元年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動報告

1 協議会の活動

小中一貫教育に関する取組全般の進行管理を行い、取組内容の点検確認とともに改善について意見の交換等を行う。

2 令和元年度の活動計画

(1) 年2回の協議会を開催予定

①第1回協議会 7月12日(金)

②第2回協議会 2～3月開催予定[年度末進行管理]

※本協議会は必要に応じて会長が招集する。(本協議会設置要項第6条)

(2) 中学校ブロックの特色ある取組の視察

取組を視察し、その後現地にて交流・協議を行う。(2学期予定)

・視察受け入れ可能な取組を委員が選択し参加する。

・学校と小中一貫教育推進協議会委員の交流・協議の場をもつ。

(管理職や小中一貫教育コーディネーター等が対応)

(3) プロジェクトチームの設置

3 令和元年度の活動報告

(1) 協議会の開催

①第1回協議会 7月12日(金)

②第2回協議会 1月22日(水)

③第3回協議会 2月20日(木)

(2) 取組の視察

日 付	視察校(中学校ブロック)	取組内容	視察委員
10月28日(月)	北宇治中学校(北宇治中学校ブロック)	合同研修会	榊原会長 雪浦委員
11月6日(水)	木幡中学校(木幡中学校ブロック)	6年生体験入学	榊原会長 井戸本委員 原田委員
11月14日(木)	南宇治中学校(南宇治中学校ブロック)	6年生体験入学	榊原会長 山田委員
12月14日(土)	宇治中学校(宇治中学校ブロック)	地域行事	薮副会長 青木委員 内田委員 瀬野委員

※4中学校ブロックの取組視察を実施

※委員の視察時に、視察ブロック関係者と意見交流や協議を実施

令和元年度 宇治市小中一貫教育に係る視察受入状況

日 付	団 体 名		人 数	視 察 先
5 月 1 6 日 (木)	交野市教育委員会	大阪府	2 6 名	宇治黄檗学園
8 月 7 日 (水)	佐那河内小中学校	徳島県	2 3 名	宇治黄檗学園
1 1 月 2 7 日 (水)	佐川町教育研究所	高知県	8 名	宇治黄檗学園
2 月 2 6 日 (水)	石川県教育委員会	石川県	4 名	宇治黄檗学園

(令和 2 年 2 月末時点)

*計 4 団体 6 1 名

